

オリンピックの歴史

-Olympic History-

2022年2月は北京オリンピックが開催されました！2020年には56年ぶりに東京でオリンピックが行われました。今回はオリンピックの歴史についてご紹介いたします。

オリンピックはいつから始まった？

1896年に始まった近代オリンピック。その前身となったのは古代ギリシアで行われていた「オリンピア祭典競技」、いわゆる古代オリンピックです。古代オリンピックが始まったのは、考古学的な研究によって紀元前9世紀ごろとされています。

冬季オリンピックはいつから？

冬季オリンピックは1924年、私達が普通、「オリンピック」と言っている夏の大会に28年遅れてはじまりました。

パラリンピックはいつから始まった？

1960年イタリアのローマで開かれた、第9回国際ストーク・マンデビル競技大会として開催。後日、第1回パラリンピックとして位置付けられる。1964年東京オリンピックは第2回パラリンピックとなります。

五輪マークについて

オリンピックのシンボルとして知られる五輪のマークは、「近代オリンピックの父クーベルタン」が考案したものです。青、黄、黒、緑、赤の色は、地色の白を加えると、世界の国旗のほとんどを描くことができるという理由で選んだ、と、彼自身が書き残しています。また、5つの輪は5大陸の結合をあらわしていますが「どの色がどの大陸をあらわしている」というのは、実は俗説なのです。このマークが描かれた旗は1914年6月のIOC創設20周年記念式典で、クーベルタンによって披露され、アントワープ大会(1920)以降、開会式で使われています。

経験と成長

森 直樹 (代表取締役社長)

2022年もはや3月となりました。日が長くなり、気温も徐々に過ごしやすくなるものになります。弊社では毎年恒例の社内展示会、「第30回元気が出る森松展」の9月開催に向けて準備が始まりました。詳細は今後弊社ウェブサイトにてお伝えして参りますが、さらに2022年7月14日には森松株式会社の前身である「森松商店」創業から70周年を迎えます。記念すべきイベントですが、このコロナ禍という情勢を踏まえて準備を進めて参ります。企業はさておき、人は年月を経て身体は大きくなり、心もまた同様に成長発展します。人間は内面的にどのように成長するか。その要素のひとつに経験・体験することが挙げられます。成功した体験も、失敗した体験も共にひとつのステップとなりますが、成功よりむしろ失敗のほうが学ぶことが多いと私は考えます。成功した時にはなぜ成功したのか、その細かな内容を振り返ることよりも、その喜びに浸ることでさらに自信を高める事になりますが、失敗した時は、同じ失敗を繰り返さないためにもなぜそうなったかの原因と対策を考えざるを得ません。そこに成長する要素があると思います。つまり失敗の数が多ければ、成長するチャンスはありますがその際に大切なのは「その失敗をどう捉えるか」ということです。失敗を次へ活かすには、そこから何らかの学びや教訓を掴むといったことを経て成長の糧となります。逆に失敗を単なる不運や、自分以外の人間、自分自身の力の及ばない範囲のことを要因として捉えると、それは失敗したというマイナスの感情のみが残る結果となります。失敗を恐れずに前進し、そこからまた成長できるという好循環を続けていくことで成長し、そして自信へと繋がる。「場数・経験・体験」を恐れずに積み重ねていきましょう。



北京オリンピック

吉岡 孝記（営業部）



冬季北京オリンピックが開催されています。スキージャンプの小林陵侷さんがノーマルヒルでまた、スノーボードハーフパイプで平野歩夢さんが金メダルを取りました。フィギュアスケートも新生鍵山優真さんが銀メダル、宇野昌磨さんが銅メダルを取りました。羽生結弦さんは残念ながら4位になりましたが、SPで不運にも氷の穴に引っ掛かり、回転不足で出遅れ、フリーも誰も飛んだことのない4回転半に果敢に挑みましたが、転倒しメダルには届きませんでした。こけても立ち上がり諦めずに必死に演技する姿に、たくさんの方が感動したことでしょう。オリンピックでの浅田真央さんの演技を思い出しました。いろんな競技でオリンピックの為に4年間苦しい練習をしてきた成果を発揮しようと必死に競技する姿は順位にかかわらず素晴らしく感動しました。ただ、残念なこともありました。スキージャンプで4位入賞した高梨沙羅さんに対するSNSでの誹謗中傷の記事を目にし腹立たしく、情けなく感じました。世界で4位ですよ、胸を張って帰ってきてほしい。近年よく問題になっているSNSでの書き込みによっていろんな人が苦しんでいます。早く法整備をしてほしいと思います。また、疑惑の判定や、ドーピング問題、高梨沙羅さんを含めスキージャンプ団体の女子が複数、スーツ規定違反で失格になるという問題が発生し、何か詳しいことはわかりませんが、いままでこんなことはあまり聞いたことがなく、いろんな関係者の意見を聞くと何かもやもやします。公明正大に判定を下してほしいと心から思います。平和の祭典と言われるオリンピックですが近年のIOCのバッハ会長を含め金もうけ主義になっている今の現状、また、国家間での政治の問題などいろんな事情はありますが選手の為のオリンピックになってほしいと思います。

はじめてのスマホ？

安井 浩二（企画営業部）



昨年末に父親から携帯電話が欲しい。と連絡がありました。理由は母親が入院し（現在は自宅療養中）コロナ禍なので面会ができず、連絡が取れない状況のため。また本人も6月に入院して同じような状況だったのでいつでも連絡が取れるようにしたいと。以前から携帯電話を勧めていたが、やっとその気になったか…。ということで早速、ドコモショップへ予約し来店する。ガラケーを購入予定であったが父親は「これからはスマホかな？アプリがあると便利と聞いた。」（アプリ？知っているのか？）この予想外の言葉がのちに不安が的中する。文字が大きくわかりやすいスマホを契約。すでに自宅などの電話番号も登録し早速、自宅へ戻り使い方を教えながら練習するが…。画面のスライドができない。うまくタッチができない。ガラケーすら持っていなかったので理解ができない。大河ドラマの渋沢栄一が初めてパリ万博を体験した様子を思い出す。何度やっても厳しい。しまいには「もう、ええ、こんなもん使えん。返してくるわ」と。ちょっと待て、契約したばかり。返品は無理。「なんでスマホにしたん？」「電話だけでいいのに、ガラケーはもうすぐ使えなくなるからと聞いたから。」それは3G回線のことだが、そんな説明しても伝わらないだろう。契約の時にしっかり触らせるべきであった。慣れてもらうしかないと思ったが、実家にはWiFiすらない。へたに回線の使い過ぎで高額を請求されるかもしれない。変なメールにタッチして詐欺に合う可能性も考えられる。後日、らくらくホン（ガラケー）を新古品で購入。SIMを差し替え回線も変更し、新たに渡して操作を説明。今度はTVリモコンのようにボタンがあるので理解しやすくある程度は使えるようになった。（と思う）CMでは高齢者がはじめてのスマホとしてよく宣伝しているが…。90歳近い父親にはいきなりスマホは厳しかった。「使えん！」と聞いたときは腹が立ったが、思い返せば思うように操作できない自分に悔しかったのだろう。幸い認知症や介護もないので救われている。父親も老人である。優しく労わらなければ…。

筆の力

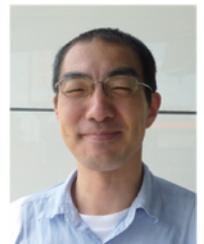
大石 耕平 (東京オフィス)



文字は心の窓である。私の書く字は小学生の頃からいまだ変わらぬミミズのような文字である。過日、私宛に一通の手紙が届いた。内容は私との約束を反故してしまったという謝罪の手紙であった。内容は大変残念なことではあるが、それ以上に美文字で書かれた2枚の便箋は品と誠実さを感じるものであった。もし同じ内容を自分が書いたらどうだろう…書いてみれば自分が思った以上に深刻なダメージで、心が死んだ。いまだに完全回復できていない。許せるものも許せなくなりそうな筆跡であったことに改めてビビる。思い立ったが吉日。書店へ向かいペン字の冊子を買ひ、週末は小学生の娘と並んでひらがな、カタカナ、漢字の書き取りを始めた。ようやく半分を終えたところだが、単語を書くのと、文章を書くのでは難しさのレベルが段違いなのだ。なぜこの年で書き取りを始めたかという、もしかしたらいつかの彼女に文字をしたためるそんな日が来るかもしれない。そんな淡い期待を抱いて私はペンを走らせたのである。男三十八歳。紳士な大人の男ほど陰の部分があるものだ。許してほしい。ある日、夜遅くに仕事から帰宅すると妻からの手紙が机の上にあげられていた。先手を打たれた気がしたが、読み上げると「字の汚さは先天性なの後天性なの」と松浦亜弥の楽曲「ね～え？」(セクシーなの?キュートなの?)の影響が見られるポップな冒頭から、「やっぱり脳の…」という諦念の締めまで、あらゆる負の感情が詰まっていて、ただただ恐ろしい。B面もビッシリと私へのライムがギッシリ。(トラウマになりそうで読み返すことが出来ないので速やかに処理)それも綺麗な楷書で書かれており、ここでも文字が持つ力の強さを知った。「ペンは剣よりも強し」まったくその通りである。こんなに短くて恐ろしいラブレターは初めてだが、私へのポップな応援歌に読めなくもない。私はいつものように納得できないことを納得しながら進んでいく。「後ろ」ではなく、「前へ。前へ。」心を殺して。

精神力

松井 宣和 (製造部)



前回大会 2018年ピョンチャンオリンピックでは日本の獲得メダル数は金メダル4個・銀5個・銅4個でした。今回アジア連続開催で北京大会です。前半の半分の日程が消化した時点で私が注目していたのが、フィギュアスケートの羽生結弦選手。3連覇がかかった大会ショートプログラムの最初のジャンプで、不運にもリンクの空いた穴に乗ってしまうアクシデントで4回転ジャンプが失敗。結果8位で優勝の可能性は低くなりましたが、フリーの演技で4回転アクセルをチャレンジし、転倒はしたものの4回転アクセルと史上初の認定が出ました。進化しようとする気持ちの強さを感じました。同じように気持ちが強い人がスノーボード男子ハーフパイプでソチ五輪・ピョンチャン五輪とともに銀メダルの平野歩夢選手。「トリプルコーク 1440」横4回転縦3回転を含む五輪で史上初の成功者で最高難度の演技を成功させましたが得点は伸びずに2位、なぜ。当然1位になると素人の私にもわかる演技でした。また何らかの忖度か!アメリカの採点は89点でスウェーデンは96点。開きすぎの点差。まだ平野選手しかできない難度の高い技をひとり成功させて91.75とはどういう採点しているのか?3本目は同じ演技内容で平均5点近く上乘せしての優勝。平野選手精神力、集中力のすごさに感服しました。ラストの3回目が始まるときに中継がサブチャンネル切り変わる?昨年年末にテレビを買い替えました。初めて行うサブチャンネルの切り替え方がわからず、もう少しで歴史的な金メダルの瞬間を見逃すところでした。

3月3日 ひなまつり

3月3日はひな祭りです。ひな祭りは、子どもの成長を願う節句の1つ。しかし、「ひな祭り＝女の子の節句」というイメージはあっても、ひな祭りの意味や由来を詳しく知らない人は少なくありません。そこで今回はひな祭りの由来やひな祭りにまつわる食べ物などを紹介します。

ひな祭りとは

ひな祭りの起源が季節ごとに設けられている「五節句」の1つ「上巳の節句」であることから、毎年3月3日がひな祭りの日として定着しています。五節句は、神様へ季節ごとの食物を供える風習です。上巳の節句は、桃の花が咲く時期と重なることから、「桃の節句」とも呼ばれています。

ひな祭りにまつわる食べ物

〈はまぐりのお吸い物〉

はまぐりは1対2枚の貝殻を持つ“二枚貝”。対の貝はぴったりと合うけれど、それ以外の2枚の貝が合うことは絶対がないという特徴に由来します。このようなはまぐりの特徴は仲の良い夫婦を表すものとされており、一人の相手と永遠に仲良く過ごせますように、という願いが込められていると言われています。

〈ひなあられ〉

「ひな祭り」にひなあられを食べようになったのは、「ひなあられ」には娘の健康を祈願するという意味が込められているからです。ひなあられは四季を意味する「桃・緑・黄・白」の4色で構成されていて、「一年を通して娘の幸せを祈る」という意味もあります。

〈菱餅〉

緑、白、ピンク(紅)の3色の餅を菱形に切って重ねたものが「菱餅(ひしもち)」。色の意味にはいくつかの説がありますが、緑は「健康や長寿」、白は「清浄」、ピンクは「魔除け」という意味が込められています。

ひな祭りの由来

ひな祭りの起源である五節句は、古代中国の「上巳節」が由来となっています。季節の変わり目である3月3日は邪気が入りやすいとされ、中国では3月になると水辺でお祓いをしたり、縁起の良い桃の花で厄払いを行ったりする風習がありました。遣唐使によって伝えられた上巳節は、平安時代に年中行事となり、江戸時代以降は五節句として多くの人々に親しまれるようになりました。貴族の子どもたちの間で人気があった「人形遊び(ままごと)」「ひいな遊び」が五節句と結び付き、女の子の成長や良縁を願うひな祭りとなったといわれています。

ひな人形の意味

人形遊びから始まったひな人形ですが、ひな祭りで飾るのには意味があります。もともと人の形に作った人形に、子どもに降りかかる厄災を代わりに引き受けてもらう、厄払いがありました。それが時代を経て、ひな人形が女の子の一生を厄払いをする形代として飾られるように。その意味からいうと、1人の女の子にひな人形は1つ(1セット)をもつのが正しいそうです。3姉妹いたらひな人形が3つ……とても今の住宅事情では難しいですね。代々受け継がれているおひな様も聞きますが、母娘で引き継がれていくのも素敵です。

DIY

山田 圭子(森松産業)



長い間、和室の暗さが気になっていて、どうにかして明るくならないかと考えていました。まず考えたのが壁紙を貼る事。現状の壁紙をはがして貼るのは面倒くさい!!手っ取り早くペンキでも塗ってしまおうか、それとも業者に頼んで綺麗にしてもらおうか…さすがに予算オーバー。悩んで悩んで、子供にも相談して漆喰を塗る事にしました。漆喰に決めたのはいいけど、安く仕上げるのは自分で水分調整をするタイプ。だけど、ど素人にちょうどいい分量などわかるわけがない。調べると、うまーくヌレール漆喰なんていうものがある。「これだ!!」って思いホームセンターへ。自分で練ることもなく、すでにベストコンディション。はて、どのくらい必要なんだろう?目安は書いてあるけど、さすがにこんなには要らないだろうと表示より少なく購入。壁に掃除機をかけて、窓枠等マスキングテープで養生。きっとこの一回で次に壁を触ることはないだろうと思い、専用道具を買うこともやめたので、私と子供2人で手袋をはめて手で漆喰を塗ることにしました。塗る厚さもわからず3人で「こんなもんでしょ」と塗り始めました。塗り進めていくと「漆喰が全然足りない。」厚く塗りすぎたのと、買い控えしたのが原因。頑張っても部屋の半分を塗ったところで漆喰切れ…。結局は36kgの漆喰を使い、6畳の和室を仕上げました。暗かった和室が明るくなり、和室は「ゲーム部屋にする」と子供たちに取りられ、パソコン、ゲーム機等が大移動する予定です。